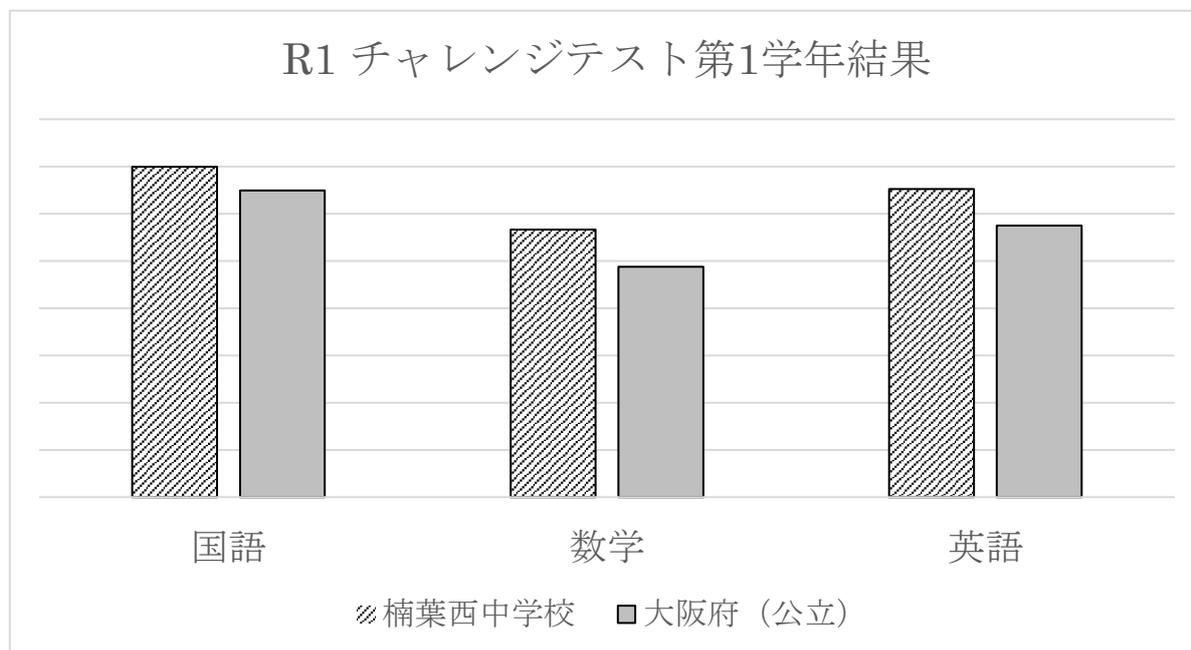


枚方市立楠葉西中学校

H31 (R1)年度 チャレンジテスト分析結果



1 年生 (国語科)

【分析】

ほとんどの設問において大阪府平均を上回った。

物語文や説明文はなく、会話文や意見文をもとにした設問が主になっている。

【成果】

漢字テストを週に一回実施してきたため、漢字の問題についてはよくできていた。

【課題と次年度に向けて】

府平均を下回ったのは言語に関する知識事項であった。漢字はよくできていたが、語彙や文法に課題がある。また、読解力にも課題が見られた。本文を正しく読み取ることができていないために、記述式の問題でも本文の内容をまとめられない。

読解力をつけるために、まずは辞書を活用する機会を増やすなどして語彙を増やしていきたい。

1 年生 (数学科)

【分析】

ほとんど(9割以上)の設問において、大阪府の正答率を上回っているが、「数と式」の範囲の「負の数」の計算を正しく理解している生徒が下回っており、これが他の分野での技能の観点において、影響していると考えられる。

【成果】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の3観点のうち、「数学的な見方や考え方」が大阪府を最も上回っているのは、日頃の学習が単なる知識の詰め込みではなく、数学の本質に迫れているからであると考えられる。また、「選択式」「短答式」「記述式」の問題のうち、「記述式」の平均点が大阪府平均に対しての割合が最も高く、平均点も大阪府平均の約2倍であるのも、4人班学習による深い学びを意識した日々の成果であると考えられる。また、得点分布の形状は、大阪府の正規分布に対して、本校は右寄りである。

【課題と次年度に向けて】

「数と式」「図形」「関数」の3つの領域のうち、「数と式」に最も課題がある。これは、日々の授業の中でも「計算力」に不安を覚えることが多いこととも重なる。各單元における問題でも、「計算力」に関わる問題でつまづいている。

「計算力」が弱いのは、十分な練習量を積んでいなかったからであると考えられる。教科書とは別に問題集やプリントに取り組みさせているが、プリント量を増やし、演習量を増やす。集団による「教え合い」や「学び合い」は活発だが、「自分で考える時間」も十分確保し、「計算力」の底上げを図る。

1年生（英語科）

【分析】

ほとんどの設問において、大阪府全体の平均正答率を上回っているが、英文を聞きその内容と同じ絵を選ぶ問題や、疑問詞や代名詞など基本的な文法知識を問う問題においては、数問ではあるが府平均を下回っているものもあった。問題の傾向としては、リスニング・ライティングともに、基礎的な知識を問う問題が多かったが、語数の多い長文問題や、英語で書かれたポスターや地図などから内容を読み取る問題など、普段からあまり英語に触れる機会の少ない生徒は、問題内容を理解するのに時間が必要となるテストであった。

【成果】

聞く・話す・読む・書く、これら4観点全てにおいて府平均を上回っている。特に、書くことにおいては府平均と比べ145%と大きく上回っており、日ごろの授業での英作文活動や、ペアやグループで行うスピーキング活動などの、アウトプットに重点を置く取り組みの成果だと言える。また、「選択式」「短答式」「記述式」の問題のうち、「記述式」の平均点が大阪府平均に対しての割合が最も高い。4人班学習による深い学びを意識した日々の成果であると考えられる。また、得点分布の形状は、大阪府の正規分布に対して、本校は右寄りである。

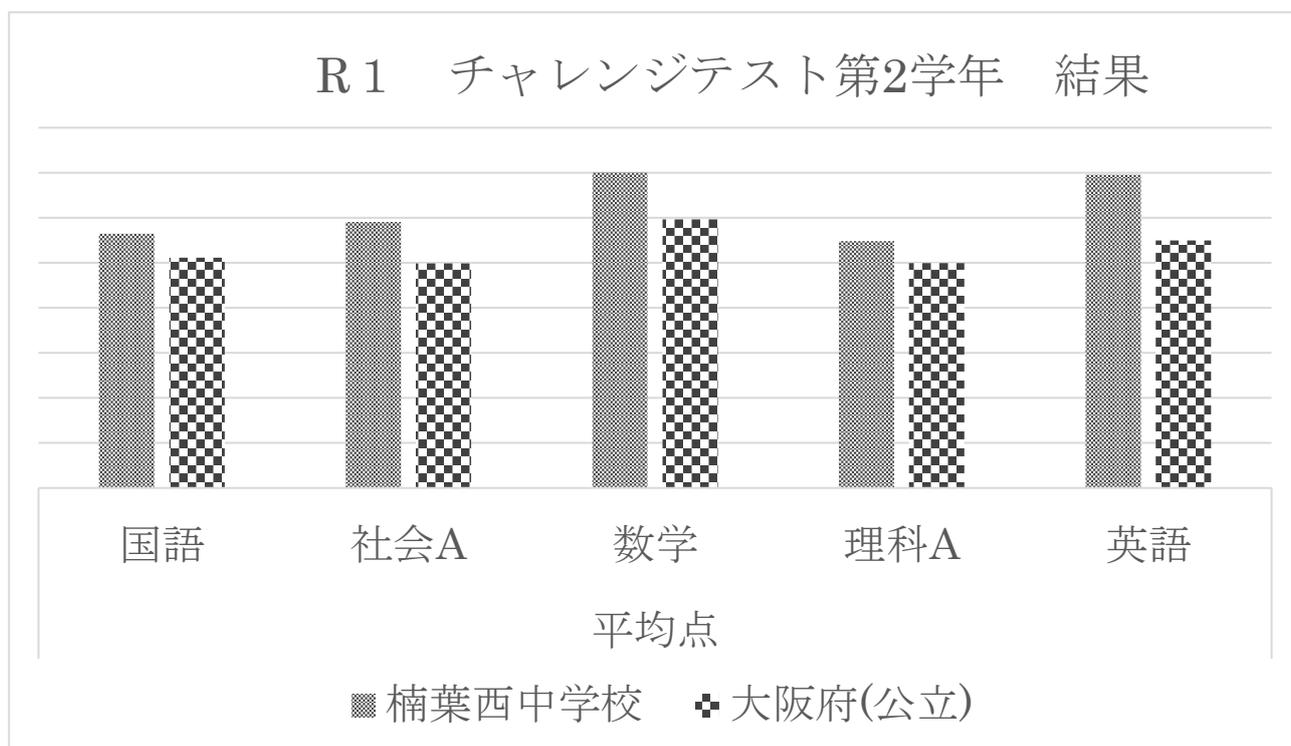
【課題と次年度に向けて】

「基礎的・基本的な知識」、「英語の資料を読み取る力」、「長文を読み取る力」これら3つの能力の向上が必要であると分かった。

今回のテストで正答率の低かった英数字や曜日を含む「基礎的・基本的な知識」を定着させるために、本年度同様に確認テストの実施のほか、定着させたい知識をたくさん使わせるスピーキング活動を取り入れていく。その際、生徒のフィードバックを大切に、生徒が授業で学んだ内容を振り

返る時間をしっかり確保することにも重点を置く。

また「英語の資料を読み取る力」、「長文を読み取る力」をつけるために、授業の中で英語の資料を含んだ長い文章に取り組みさせる。その中に、知識を活用したり、想像力を働かせたり、表現力を生かして答える問題を取り入れることで、英語の資料や長文を読み取る力の向上を図っていく。



2年生 (国語科)

【分析】

ほとんどの設問において大阪府平均を上回った。

府平均は上回っているが、自分の考えをまとめる等の「書く」問題は正答率が低い。

今年度は文章を読み取り、自分の知識や経験と結び付けて考えるような問題が多く出題された。

【成果】

昨年度のチャレンジテストの結果を分析し、読解力の向上が課題であるという結論に至ったため、今年度は、じっくり文章を読んだり、課題について考えたりする時間を多くとった。その成果もあり、読解力はついてきたように思われる。

【課題と次年度に向けて】

「言語事項」と「書くこと」に課題が見られた。文法を学ぶ時間には正しい日本語を意識させ、普段から活用できるよう授業を組み立てていく。

文章を要約したり、自分の知識や経験と結び付けて考えを書くような授業を更に増やしていきたい。

2年生（社会科）

【分析】

短答式・選択式の問題が多く、記述式については2問だけであった。また内容については、知識・理解を問うものがほとんどで、思考力・判断力を問う問題についても、最終的には知識がなければ解けない問題ばかりであった。まず基礎的な知識が定着していることが大前提である。

【成果】

15点未満がならず、無解答率も低かった。問題に対して自分たちの知識をいかして何とか答えようという姿勢が見られるようになった。

2学期後半に歴史を取り組んでいたこともあって、まだ記憶に新しい内容はとてもよくできていた。

【課題と次年度に向けて】

地理分野における基礎的な知識の定着を重点的に行う。具体的には、ワークやプリントひろば、東書 web ライブラリーなどを活用し、宿題や授業で積極的に取り組むことで基礎的な内容の定着を図る。

文章記述の問題については、引き続き授業と定期テストを通して取り組んでいく。

2年生（数学科）

【分析】

すべての設問において、大阪府の正答率を上回っているが、「関数のグラフ」に関する内容で苦戦する生徒が多い。また、無回答率でもすべての設問において、大阪府を下回っており、日頃の学習に取り組む前向きな姿勢が反映された結果であると考えられる。

【成果】

「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の3観点はすべて大阪府を上回っている。そのうち「数学的な技能」については1年生時と比べて一番上昇しており、反復練習を繰り返し行ったためと考えられるが、まだまだ必要である。また、「記述式」の問題についても4人班活動からの深い学びを意識した日々の指導の成果であると考えられる。

【課題と次年度に向けて】

「数と式」「図形」「関数」の3つの領域のうち、「数と式」にはまだまだ課題がある。計算力の向上にさらに底上げできるように演習を増やす。また、「関数」を苦手に行っているものの1年生時と比べて上昇したので、継続して力を入れていく。

「計算力」については教科書とは別に問題集やプリントでの補充をしており、宿題を毎時間提示し、家庭学習の習慣と復習の習慣を定着させる。4人班活動での「学び合い」「教え合い」を利用し、学力の底上げを図る。

2年生（理科）

【分析】

今回実施の3領域(化学・生物・地学)すべてにおいて、合計点では大阪府平均を上回る結果であった。無解答率も全体的には低かったが、出題形式によっては解答をあきらめてしまう傾向が見られた。

【成果】

化学領域では、対府平均が114.8%と大きく上回った。

正しい実験方法を選択する問題では、日ごろの実験での指導や安全に配慮した授業によって一定の理解が深まったと思われる。

【課題と次年度に向けて】

課題としては、グラフを描く問題については正答率、無解答率の両方とも低く、今後対策が必要と考える。また、生物の範囲では肺など呼吸器の関わり合いに関する正答率が他に比べ低くなっていた。そこで次年度に向けて、①グラフを描く問題に課題が見られたので、実験だけでなく、定期テストなどでグラフを描く問題を出題し、慣れさせておく。②今後も実験・観察では、器具や手順、操作上の注意など、しっかり理解をした上で取り組み、結果考察などを話し合いの中からまとめられるような力をつける。③4人班を活用し、発展的な問題などにも取り組む。

2年生（英語科）

【分析】

全体として府の平均に対して126%の点数で、すべての設問において、府の平均を上回っていた。特に会話文を読み設問に答える問題に関しては、府の平均の約2倍の平均点であった。記述式の問題の平均は府の平均に比べ185%と、極めて高い点数であった。これは、日ごろから自分の意見を考えて書くという英作文に時間をかけて取り組んだ成果だと考えられる。その中でも正答率が低かった問題は長文の内容を理解し、日本語で答えるものであった。長文問題が、文法問題やリスニング問題に比べて正答率が低かった。

【成果】

文法問題に関しては基礎的なものが多かったため、正答率が高かった。文法プリントなどに重点的に取り組んだ成果がみられたように思う。またリスニングテストに関しても正答率が高く、これは今年度実施した生徒主体によるNETとのスピーキングテストや、週1回のNETとの授業内でのやり取りなどの成果が出たように思う。ほかの問題と比べて比較的正答率が低かったものは、長文問題である。授業中に長文に取り組む時間が十分になかったことが考えられる。

【課題と次年度に向けて】

文法やリスニングに関してはよい結果だったので、今年新たに行った活動、スピーキングテストや、one minute chatなどの活動の成果が出たように思う。次年度も引き続きこの活動を続けていきたい。ま

た、長文内容理解がほかに比べて低かったことから、長文に慣れていない生徒が多く、授業でも取り扱う機会が少なかったと考えられる。次年度は長文を読み取ったうえで情報を使い、質問に答えたり自分の考えを書く力がつくようにさまざま創意工夫された授業を展開し、そして長文問題を定期的に取り入れたい。